

目次

1. 寄稿 「環境的に持続可能な交通を目指して」(第4回)
「第8回アセアン都市交通セミナーの開催について」
【環境的に持続可能な交通(EST)普及推進委員会委員 松浦利之】
2. 寄稿 「地方から全国に向けた情報発信！」(第4回)
「LRTを軸としたまちづくりと環境負荷の低減」
【富山市都市整備部交通政策課 主幹 高森長仁】
3. ニュース/トピック
11月25日(土)に「大気汚染防止推進月間」に関する政府放送【環境省】
首都高速中央環状王子線によるCO2削減効果は年間2~3万トン【(社)日本自動車工業会】
名古屋中心部で08年秋、全国初の道路課金制度(ロードプライシング)実験へ【中日新聞】
ICカード決済システムを活用し、美術館への旅客誘致と公共交通の利用促進を図る。
【(株)スルッとKANSAI 他】
東京、大阪、札幌でカーシェアリング・ステーションの開設相次ぐ【マツダレンタカー(株)他】
平成18年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰の受賞者が決定【環境省】
「国土交通省地域活性化戦略」を公表【国土交通省】
交通による環境への影響を経済成長から切り離す施策に関する書籍を発行【OECD】
ITS産業動向に関する調査報告書(06年版)を発行【(財)日本自動車研究所】
4. イベント情報
鉄ちゃん王国とやま LRT フォーラム「世界で100番目の路面電車が街を変える」
「移動の自由を確保しよう！」都電網研究会 サイクルパス実験2とカンファレンス
豊中市民環境展 2006
第5回 ITS シンポジウム 2006
2006冬 LRT フォーラム「富山・京都・宇都宮・横浜 / わが街にLRTがやって来る」
「私鉄再編」市民のための公共交通を考える 地域力の向上とその役割
5. その他
記事募集中！

-
1. 寄稿 「環境的に持続可能な交通を目指して」(第4回)

「第8回アセアン都市交通セミナーの開催について」

【環境的に持続可能な交通(E S T)普及推進委員会委員 松浦利之】

(国土交通省都市・地域整備局都市計画課都市交通調査室課長補佐)

11月13日～16日にかけて、第8回アセアン都市交通セミナーが「持続可能な都市交通の戦略的な取組」をテーマに名古屋市にて開催されました。当該セミナーは1992年から隔年で日本とアセアン側で交互に開催しているものです。今回のセミナーは、国土交通省、愛知県、名古屋市、アセアン事務局の主催で、アセアン諸国からの参加20名、JICA総合都市交通計画・プロジェクト研修の研修生を含め、約100名の参加のもと、有意義な意見交換が展開されました。

1日目は(財)計量計画研究所黒川理事長より、「アジアにおける持続可能な都市開発と都市交通の方向」と題して基調講演をいただきました。講演の中で、急激な成長を遂げる東アジア地域での持続可能な都市開発の方向性として、今後急増する中産階級を念頭に置いた郊外の都市開発の新たな手法や「第二の都市」の育成が提案されました。

2日目は政府報告として、各国の抱える都市交通問題や、それに対する代表的な取組について各国から報告がありました。BRT導入の事例報告では、その整備主体・運用手法など具体的な導入ノウハウに係わる議論が熱心に行われ、バス利用に対する関心の高さが目立ちました。

3日目、4日目の技術報告では、環境に優しい都市交通や、バイオディーゼルなど代替燃料の取組、都市交通と土地利用の連携に関する取組、IT活用といった技術的取組、バスサービス充実のための運営助成制度の重要性等が報告され、意見交換がなされました。

期間中は終始活発な討議や意見交換がおこなわれ、本セミナーを期に日本とアセアン諸国との国際交流が一層進展し、E S Tがますます促進されることを希望して、4日間の充実したセミナーが閉会しました。

2. 寄稿 「地方から全国に向けた情報発信！」(第4回)

「LRTを軸としたまちづくりと環境負荷の低減」

【富山市都市整備部交通政策課 主幹 高森長仁】

富山市では、少子高齢社会の到来や環境問題等に対応するため、公共交通活性化によるコンパクトなまちづくりを推進することとしています。

4月29日に開業した全国初のLRT「富山ライトレール」は、このリーディングプロジェクトとして実施したものであり、11月9日には予想を上回るスピードで100万人を達成するなど、多くの市民や来街者に利用されています。また、沿線では、商店街での朝市の復活や観光施設への来街者が増加するなど、今後とも、コンパクトまちづくりとともに賑わいの創出など多

くの効果が期待されています。

一方、平成16年度には、富山ライトレール沿線と都心地区を対象に、自動車から公共交通への転換や都心居住の推進等により環境負荷の低減を図るESTモデル事業の認定を受け、ライトレール沿線では、既存鉄道のLRT化を軸として、駅での駐輪場の整備、ライダーバスの社会実験、駅へのアクセス道路の整備、まちなみ修景事業等を、また、都心地区では、都心居住への支援策、市街地再開発事業等をまちづくり交付金を活用し集中的、効果的に実施しています。

本年度は、ライトレールの開業によるCO2の削減量を把握することとしており、平成19年度には、対象エリア全体で0.6%のCO2削減を目指すこととしています。少子高齢化と環境問題、さらには行政コストの効率化は今後のまちづくりにおいて極めて重要であることから、富山ライトレールでの効果を検証しながら、環境にもやさしい公共交通の活性化によるコンパクトなまちづくりを全市的に展開していきたいと考えています。

3. ニュース/トピック

11月25日(土)に「大気汚染防止推進月間」に関する政府放送【環境省】

毎年12月は大気汚染防止推進月間です。そこで、11月25日(土)21:30~22:00朝日ニュースター(CS放送)の番組「政策対談 明日への架け橋」において大気汚染防止推進月間をテーマに、竹本和彦環境省水・大気環境局長と猿田勝美神奈川大学名誉教授の対談が放送されます。

<http://www.gov-online.go.jp/publicity/tv/asu.html>

首都高速中央環状王子線によるCO2削減効果は年間2~3万トン【(社)日本自動車工業会】

(社)日本自動車工業会は、2002年12月に開通した首都高速中央環状王子線によるCO2削減効果を年間2~3万トンと推定しています(先月発行された自工会「環境レポート2006」33頁より)。

http://release.jama.or.jp/sys/news/detail.pl?item_id=1109

名古屋中心部で08年秋、全国初の道路課金制度(ロードプライシング)実験へ【中日新聞】

中日新聞(11月17日付ウェブサイト掲載記事)によると、産官学による研究会(代表:名古屋大学森川高行教授)が、08年秋に名古屋市中心部で全国初の道路課金制度の実験を目指します。受容性・柔軟性を高めるため、課金区域に入る際、いったん一定額を「預かり金」として徴収し、区域内で駐車場を利用したり買い物をした場合に返金する「駐車デポジットシステム」を模索しています。(実験では、実際には料金を徴収しません。)

<http://www.mlit.go.jp/road/tech/shinki/h18koubo.html>

ICカード決済システムを活用し、美術館への旅客誘致と公共交通の利用促進を図る。

【(株)スルッとKANSAI 他】

(株)阪神電気鉄道、(株)ジェイコム、(株)スルッとKANSAIは、ICカード決済システム「Pi Ta Pa」を活用して、美術館への旅客誘致と公共交通利用促進を図るため、「Pi Ta Pa で レール&ミュージアム」と題したキャンペーンを実施します。

期間中に「Pi Ta Pa」対応カードを使って阪神電車に乗車し、同日、同じカードを使って兵庫県立美術館の「ピクサー展」に入館すると、入館料が割引かれ、さらに、鉄道運賃の半額相当が後日キャッシュバックされます。

<http://holdings.hankyu-hanshin.co.jp/ir/data/SR200610261N2.pdf>

東京、大阪、札幌でカーシェアリング・ステーションの開設相次ぐ【マツダレンタカー(株)他】

今月は複数の事業者によるカーシェアリング・ステーションの開設が相次ぎます。全国展開を進めるマツダレンタカーは、東京の秋葉原と札幌でステーションを開設します。大阪では、自動車整備会社3社がそれぞれ東大阪市、茨木市、池田市で「ウインド・カー」ブランドのステーションを開設します。

<http://www.cs24.jp/>

平成18年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰の受賞者が決定【環境省】

地球温暖化防止に顕著な功績のあった個人又は団体を表彰する地球温暖化防止活動環境大臣表彰の今年度受賞者が決定しました。運輸交通関係では、東京電力(株)、富士重工(株)、NECラミオンエナジーの3社(電気自動車、リチウムイオン電池、急速充電器の開発)、河北地域エコドライブ推進研究会(エコドライブ推進に向けた支援システムの開発等)、神戸市(地下鉄における省エネ施策実施、市民への普及啓発活動)、東日本旅客鉄道(株)(使用電力量が少なく、車両重量の9割をリサイクルできる車両の開発・導入)、(社)神奈川県トラック協会(エコドライブの効果検証と普及)などが受賞します。

<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=7710>

「国土交通省地域活性化戦略」を公表【国土交通省】

地域の活力の向上に向けた具体的方策を検討してきた国土交通省地域活性化戦略会議が「国土交通省地域活性化戦略」を取りまとめました。

地域の活力を支える交通施策の関連では、「都市・地域総合交通戦略」(仮称)の策定を促進するとともに、同戦略に基づき行われるLRTやBRT等の公共交通導入促進・利用促進、モビリティマネジメント活動等の取組を総合的に支援することをうたっています。

http://www.mlit.go.jp/kisha/kisha06/01/011122_2.html

交通による環境への影響を経済成長から切り離す施策に関する書籍を発行【OECD】

“Decoupling the Environmental Impacts of Transport from Economic Growth”と題した書籍が今月、OECD から発行されました。経済成長は効率的な交通システムを必要とし、交通活動は環境や人々の健康や経済に悪影響をもたらします。しかし、交通による環境負荷の増大は経済成長の必然の帰結なのでしょうか。本書は、交通需要と経済成長の繋がりに関する最近の研究結果を検討するとともに、交通による環境への影響と経済成長とを切り離すための施策(課金や税金など)が環境や経済に及ぼす効果を検討しています。

http://www.oecd.org/document/7/0,2340,en_2649_34363_37676487_1_1_1_1,00.html

ITS 産業動向に関する調査報告書(06年版)を発行【(財)日本自動車研究所】

財団法人日本自動車研究所(JARI)は、「ITS 産業動向に関する調査研究報告書~ITS 産業の最前線と市場予測 2006~」を発行しました。ITS 全般に関して現状の技術動向と市場動向を調査するとともに、カーナビゲーションや ETC などの分野については、3~5年後の市場予測を独自に行っています。

<http://www.jari.or.jp/ja/kenkyu/kenkyu-3/pdf/news061106.pdf>

4. イベント情報

鉄ちゃん王国とやま LRT フォーラム「世界で 100 番目の路面電車が街を変える」

- 3 市長(富山・高岡・射水)サミットと魅力ある公共交通のまちづくり -

日時:2006 年 11 月 25 日~26 日

場所:富山市(111 インテックビル3F スカイホール他)

主催:北日本新聞社、未来観光戦略会議 共催:富山市、高岡市、射水市

<http://www.portram.net/event/20061125LRT.php>

「移動の自由を確保しよう！」都電網研究会 サイクルパス実験2とカンファレンス

日時:2006 年 11 月 26 日(日)

場所:都電荒川線および荒川山吹ふれあい館

主催:都電網研究会 共催:環境 NGO エコ・クリエイターズ・クラブ

http://todenmo.cocolog-nifty.com/blog/2006/11/_a1dc.html

豊中市民環境展 2006

日時:2006 年 12 月 1 日、2 日

場所:豊中市民会館

主催:NPO 法人とよなか市民環境会議アジェンダ21

後援:環境省近畿地方環境事務所

概要: 毎年開催されている「豊中市民環境展」に併せて、「とよなかこどもEST事業シンポジウム」を行う。

<http://www5b.biglobe.ne.jp/toyonaka/>

第5回 ITS シンポジウム 2006

日時: 2006年12月6日(水) ~ 7日(木)

場所: 東京大学 生産技術研究所

主催: 特定非営利活動法人 ITS Japan

<http://www.its-jp.org/topics/topics041.htm>

2006冬 LRT フォーラム「富山・京都・宇都宮・横浜 / わが街にLRT がやって来る」

日時: 2006年12月9日(土) 14:00 ~ 16:30

場所: 横浜市開港記念会館 1号室

<http://car-free.cocolog-nifty.com/yokohama/cat5197670/index.html>

「私鉄再編」市民のための公共交通を考える 地域力の向上とその役割

日時: 2006年12月16日(土) 13:30 ~ 16:30

場所: 神戸国際大学六甲アイランドキャンパス

主催: 朝日新聞社・神戸国際大学共催

<http://www.kobe-kiu.ac.jp/extension/list.php?SID=7000000005>

5. その他

記事募集中!

本メールマガジンへの掲載記事を募集中です。EST、または「交通と環境」に関連する取り組みや話題、催し物の案内等を事務局までお寄せください。

E-mail: x x x x x

=====

発行: 環境的に持続可能な交通(EST)普及推進委員会事務局

(交通エコロジー・モビリティ財団)

配信申込、バックナンバー閲覧はこちらから

<http://www.estfukyu.jp/mailmagazine.html>

配信停止はこちらから

http://www.estfukyu.jp/mailmagazine_cancel_form.html

ESTポータルサイト: <http://www.estfukyu.jp/>